

るものを漢語とは心づかないで、普通の外國語として漢人が扱った例の一つに數へるべきである。

(10) *bya trgan* は *baya tarkan* で唐代に普通「莫賀達干」といふ文字で寫されて居ることは周知のことである。

(10—11) *incü urungu sängün apačur. incü* は漢語の眞珠と相對するものであることは善く知られて居るが、兩者の緣故を如何に見るべきかは尙ほ俄かに定め難い。薛延陀の部長夷男を眞珠毗伽可汗といふたのを始め、眞珠葉護、眞珠統俟斤等の官號は唐書所載のトルコ族の傳について屢々認められる所である。*urungu* はオルホン碑文の中にも *urungu külüg, alp ulungu, alp ulungu tutuq* 等の形に於て見えるものである。*apačur* は思ふに「阿波𦵏」の字を當てるべきであらう。オルホン碑文にも *apa tarkan, äcü apa, inancü apa* 等の語が見える。阿波が究厥の大臣二十八等中の一つであることは唐書突厥傳に載せてある。*čur* と𦵏との相對するものであることはいふまでもない。

(12) *mängü ykän* は Le Coq 氏の *Türkische Manichaica III, Nr. 37* に掲げた斷片にも *mängü y(ä)gän* と寫されて見えて居る。

この行及び次の行の *solmily* については後に述べる。

(13) *alp tutuq* は「合都督」即ち勇ましき都督、*ögrünc* は歡喜の義である。

(14) *čigsi* は B7 にも見え、「刺史」といふ語であることも善く知られて居る。^⑪唐書回鶻傳に回紇以下の鐵勒諸部が貞觀二十一年に入朝した時に、「皆以酋領爲都督・刺史・長史・司馬」と見えてゐる。唐官を稱することが